

活動報告書

報告者氏名: 日置節子

所属: 大阪府立寝屋川支援学校

記録日: 平成26年2月27日

【対象児の情報】

・学年 小学部3年生

・障害名 知的障がいを伴う自閉症

・障害と困難の内容

○注意集中が不得手。興味を持ちにくい活動で場を離れたり、手が止まったりする。

○要求が伝わらない、新しい場面で不安・等の時にパニックになることがある。

◎歯みがき、更衣などの日常生活動作に言葉掛けなど大人の直接的な支援が必要。

【活動目的】

・当初のねらい

iPadを使って動画（ビデオモデル）を活用し、日常生活に必要だった大人の直接的な支援を減らす

iPadを使って動画（ビデオモデル）を活用し、「Aくん自らの行動」に繋げる

・実施期間

平成25年 5月 ～ 平成26年 2月

・実施者

日置節子

・実施者と対象児の関係

クラス担任

【活動内容と対象児の変化】

・対象児(Aくん)の事前の状況

Aくんは平仮名を読むことができ、単語での簡単な会話ができる。これまで支援として活用していた絵・文字カードや、言葉掛けの意味は理解できていると思われる。だが、それらの支援の元で、「歯みがき」や「更衣」に繰り返し取り組んでも、自らの行動には結びついてこなかった。毎日繰り返す活動なのに、集中力の持続が難しく「歯みがき」「更衣」等を一人でやりとげることができなかった。また教師からの言葉掛けが、不安に繋がる要因となることが時々あった。

Aくんの具体的な困難は「一人で歯みがきや更衣がやりとげられない」というものだった。その困難の背景には「絵・文字、言葉での支援が、Aくん自らの活動に結びつきにくい」という、大きな課題があった。

また、「一人でやりとげられない困難」によって、Aくんには「自分でできる、最後までやってみよう」という積極的な気持ちが育ちにくくなっていると思われた。小さな成功体験の積み重ねによって、Aくんの気持ちの変容を導く取り組みが必要だった。

Aくんは歌や文字の動画を好んだ。余暇や授業の中で、テレビに映し出される動画やアニメを集中して見る様子がよく見られた。また、視覚優位で情報を理解しているという特徴から、「動画（ビデオモデル）」の活用を試みようと考えた。

・活動の具体的内容

①iPadでの個別学習で操作に慣れる（5月～）

ほぼ毎日、5分～10分程度取り組んだ。

（アプリ：かなもじ^か_なもじ^も_じ、なぞるーと^なぞる^ーと^もも^ろ、さわっておしてゆびあそぶ^さわ^って^おし^てゆ^びあ^そぶ^っく^く）

②動画を見ながら歯をみがく（6月～）

「担任モデル」の歯みがきの動画を作成した。学年一斉授業の中で本動画を使い、最初の歯みがき指導を行った。引き続き毎日の歯みがきの時間に動画を見ながら歯みがきをした。（アプリ：Keynote^キ_イ^ノ_{ウ^ト）}

③家庭でも同じように歯をみがく（6月下旬～現在）

学校での歯みがきに慣れた頃、家庭でも同じ動画を使って歯をみがくようにした。

初回は、場所が学校から家庭に変わった戸惑いからか、「担任モデル」の歯みがき動画を見るのを嫌がった。そこで、学校での歯みがき動画を見ながら歯を磨くAくんの歯みがきの様子を撮影し（「本人モデル」）、翌週末に自宅でそれを見てもらった。それを見ることで、自宅で「担任モデル」の歯みがき動画を見ることへの戸惑いが解消した。

④鞆の整理・更衣（7月下旬～） 給食エプロンへの着替え（12月～）

登校時・下校時の鞆の整理、更衣の手順を動画で示した。始めは「本人モデル」の動画を使用した。本人モデルの動画使用時には、部分的には活動できたが、完全にやり遂げるには至らなかった。そこで「担任モデル」で動画を作成し直した。作成時には「情報の精選」「音声の活用」「フィードバック」に留意した。

また、Aくん個人のタブレット活用場面のため、小型のiPhoneにデバイスを変更した。簡単に動画を作成・変更できるように、元々搭載されている写真アプリを使用した。

12月からは、エプロンへの着替えにも動画を使用した。

⑤苦手な歯医者さんで動画を活用する

担任が歯科受診をしている動画を見ながら、担任を歯科医師に見立てて「はいしゃさんごっこ」を行った。その後、実際の歯科受診にあわせて、保護者にiPadを持ち出してもらい、動画を見ながら受診した。

⑥iPadを連絡帳として使用する（6月～現在 毎月1・2回程度 週末にiPadを持ち帰る）

学校での動画の活用の様子に変化が見られた折々に、Aくんの様子や動画の内容をiPadに入れて持ち帰った。また、保護者には療育施設での取り組み、家庭での歯みがきの動画を撮影してもらい情報交換した。

・対象児の事後の変化（上記の①～⑥に対応）

①個別の学習によって、タップ、スワイプ、ピンチなどのiPadの基本操作に慣れた。

②歯みがきの動画に興味を示し、模倣をする様子がみられた。毎日動画を使用することで、タップをして動画を進めながら一人で歯をみがけるようになった。しばらくすると、友だちをリードしてiPadを操作するようになった。

③「自身モデル」の動画を見ることが1つのきっかけになり、家庭でも「担任モデル」の動画を見ながら、歯みがきが自分のできるようになった。

④「担任モデル」の動画を使う事で、活動がスムーズになった。着替えの時間がくると、ロッカー前に置かれた iPhone を手に取って操作し、動画を見ながら活動をやり遂げるようになった。また、「よくできました」という言葉で、できたことを笑顔で担任に報告するようになった。かかる時間も短くなり、その後の楽しい活動を期待したり楽しんだりする様子が見られた。

⑤「はいしゃさんごっこ」では口を開けて、器具を入れてもらうことができた。実際の歯科受診ではパニックになったが、以前より落ち着いている時間が増えた。

⑥保護者に A くんが動画を見ながら、歯みがきや着替えに取り組む様子を見てもらい、様子を具体的に理解してもらうことができた。動画の活用が「A くんにとって強力な支援方法」になること、「動画に含まれる情報の精選が必要なこと」などが共通理解できた。また保護者から A くんの治療施設や放課後デイサービスに動画活用の様子を紹介してもらった。

※自分で歯みがき



※友だちを見ながら一緒に歯みがき



※エプロンへの着替え



※見ている担任モデルの映像（7種のうち2種を抜粋）



※鞆の整理



【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

○動画の力

絵カード（静止画）ではイメージできずにいた「動き」が、「動画」「音」によってリアルにイメージでき、A くん自らの活動に繋がった。また、ビデオモデリングは、多くの児童にとっても分かりやすい支援方法の1つである。

○A くん の 成長

自分でやり遂げる成功体験の積み重ねが、「模倣力」「集中力」を伸ばし、担任との「共感する力」を成長させた。

○動画の内容とAくんの取り組み方の変化

動画の内容によって、Aくんの取り組み方が変化する。

<現在使用している動画の作成方法と留意点>

①1つ1つの活動を短めの動画で撮影し、それぞれを並べ合わせる 情報の精選

例：エプロン着用のモデリング（担任モデル・計6つの動画を組み合わせる）

< エプロンを机に運ぶ → 袋から出す → エプロンをつける → 袋を片付ける → 手を洗う → 席に着く >

②動画中に活動を示す端的な言葉を添える 音声の利用

例：セリフ「エプロン・帽子・マスクを出します」「できあがり」、「エプロンを着ます」「できあがり」

③活動の終わりに「できた」ことを示す賞賛のイラストを含む フィードバック

例：Aくんの場合「よくできました」という文字と「花丸」のイラスト

・エビデンス(具体的数値など)

○動画による支援が、多くの児童にとって分かりやすいことを示すエビデンス

<クラスでの歯みがきイラスト時・動画時の比較>

	Aくん	Bさん	Cさん	Dさん	Eさん
イラスト	手を添える支援要	△	△	△	手を添える支援要
動画	○	◎	○	○ たまに△	手を添える支援要

◎：支援対象を覚え、動きにそってみがく

○：支援対象を見ながら、動きにそってみがく

△：言葉掛けがあればできる

※動画を使用する事で取り組み方に変化が見られた児童は皆、「動き」「音（リズム）」を意識していた。

○Aくんの成長を示すエビデンス

- ・ダンス、手遊び、体操等の模倣が必要な活動に積極的になった。
- ・机上でのプリント学習等に集中できる時間がのびた。
- ・「できた」喜びを自ら担任に伝えるようになった。

模倣力の成長

集中力の成長

共感の力の成長

○動画の内容とAくん取り組み方の変化を示すエビデンス

本人モデルの動画使用時

特徴：本児童の活動を撮影し編集したため、雑音が入り・動きのテンポが悪い

- ・雑音や動きのテンポの悪さによって集中力が続きにくい
- ・活動が最後までいきつかない

担任モデルの動画使用時

特徴：上記した①②③の作成方法に留意

- ・動画の進行に合わせるように活動し、時間が短縮
- ・以前は手伝って欲しいと言ってきていた活動にも、自分から取り組む
- ・初めての動画使用時に、スムーズに取り組む（エプロン着用の動画使用后、2日目でできる）

・その他エピソード

Aくんの思いを受け止めるには・・・

朝の更衣の動画を見ながら「くるんくるん」と言って、動画をドラッグさせようとし、うまくいかずに泣くことがあった。「こうあってほしい」という動画の形と異なった仕様になっていた?と推測される

担任の思いが受け止められない ↔ Aくんの思いが伝わらない

今年度の中頃から「要求」をAくんなりの方法で、さまざまに表出することが多くなった。だが①「伝わらない」(Aくんのもつ表出手段の不足)②「今はできないが、〇〇の次にしよう」が難しい(調整する力の未熟さ)③「怒る・泣くなどの直接的表現」の多さ(言葉に置き換える力の未熟さ)を感じている。

今後は、コミュニケーション面、心理的な安定面へのタブレット活用を検討していきたい。